

弓削商船高等専門学校		開講年度	平成29年度（2017年度）		授業科目	海運経済論（航海）	
科目基礎情報							
科目番号	5A26		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	商船学科		対象学年		5		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	ビジュアルでわかる船と海運のはなし：拓海広志（成山堂）						
担当教員	野々山 和宏						
到達目標							
主流派経済学の基礎的知識を踏まえた上で、海上運送を経済学的側面から検討し、海上運送実務者としての基礎的な専門知識を学習する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
主流派経済学の基礎的な考え方を説明することができる	主流派経済学の考え方をを用いて基本的な経済原理を説明できる		主流派経済学が想定している世界観を把握できる		主流派経済学が想定している世界観を把握できない		
海上運送の実務面について基本的な事項を説明することができる	定期／不定期の運送形態の違いや契約種類について説明できる		定期船／不定期船の違いや運賃の意義を説明できる		定期船／不定期船の違いや運賃の意義を説明できない		
日本海運の現状とその問題点を把握して、その解決策を検討することができる	現状と問題点を整理し自らの考えを提示できる		現状と問題点を整理することができる		現状と問題点を認識することができる		
学科の到達目標項目との関係							
教養 C1 専門 E1							
教育方法等							
概要	主流派経済学の基礎的知識を踏まえた上で、海上運送を経済学的側面から検討し、海上運送実務者としての基礎的な専門知識を学習する。 養成施設引当て科目（単位）：航海コース〔航海計画(0.1),貨物の取扱(0.5),乗組員の管理(0.4)〕						
授業の進め方・方法	座学の講義を基本とし、理解の手助けとなるよう適宜プリント等を用いる。						
注意点	海運・海事関係書籍を注意して読んでおくこと。なお、他人に不快感を与えない服装で出席すること。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	主流派経済学の基礎知識① （経済主体・市場と経済循環）			主流派経済学が想定している世界観を把握し、基本的な経済原理が説明できる	
		3週	主流派経済学の基礎知識② （需要と供給・政府の役割）			主流派経済学が想定している世界観を把握し、基本的な経済原理が説明できる	
		4週	主流派経済学の基礎知識③ （GDPと経済成長）			主流派経済学が想定している世界観を把握し、基本的な経済原理が説明できる	
		5週	主流派経済学の基礎知識④ （マネーと外国為替）			主流派経済学が想定している世界観を把握し、基本的な経済原理が説明できる	
		6週	海上運送について① （定期船運送・コンテナ輸送）			定期船運送の概要が説明できる	
		7週	海上運送について② （不定期船運送・ばら積み輸送）			不定期船運送の概要が説明できる	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	海上運送について③ （海上貨物の特徴）			海上貨物の特徴が説明できる	
		10週	海上運送について④ （海上貨物の特徴）			海上貨物の特徴が説明できる	
		11週	海上運賃・運賃の意義			運賃についての考え方が把握できる	
		12週	不定期船について① （航路別市場）			不定期船の運賃等について説明できる	
		13週	不定期船について② （タンカー運賃）			不定期船の運賃等について説明できる	
		14週	定期船について①			定期船の運賃等について説明できる	
		15週	定期船について②			定期船の運賃等について説明できる	
		16週	期末試験				
後期	3rdQ	1週	海運における競争			海運業における競争の特徴が説明できる	
		2週	海運業その特徴と発展の歴史① （日本外航海運史）			海運業の歴史を認識し、その特徴が説明できる	
		3週	海運業その特徴と発展の歴史② （日本外航海運史）			海運業の歴史を認識し、その特徴が説明できる	
		4週	海運業その特徴と発展の歴史③ （日本内航海運の特徴）			海運業の歴史を認識し、その特徴が説明できる	
		5週	日本海運の現状と諸問題① （便宜置籍船）			日本海運の現状を認識し、その問題点等を整理して自ら考えが説明できる	
		6週	日本海運の現状と諸問題② （海運同盟・アライアンス）			日本海運の現状を認識し、その問題点等を整理して自ら考えが説明できる	
		7週	日本海運の現状と諸問題③ （海運同盟・アライアンス）			日本海運の現状を認識し、その問題点等を整理して自ら考えが説明できる	
		8週	中間試験				

	4thQ	9週	貨物の運送実務① (個品運送契約について)	運送契約に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		10週	貨物の運送実務② (備船契約について)	運送契約に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		11週	貨物の運送実務③ (備船契約について)	運送契約に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		12週	貨物の運送実務④ (船舶の貸借に関する契約)	船舶貸借契約に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		13週	貨物の運送実務⑤ (船舶の貸借に関する契約)	船舶貸借契約に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		14週	貨物の運送実務⑥ (海上保険)	海上保険に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		15週	貨物の運送実務⑦ (海上保険)	海上保険に関して運航技術者として必要な知識を把握し、それらの概要が説明できる
		16週	期末試験	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	0	0	0	20	100
知識の基本的な理解	40	10	0	0	0	0	50
思考・推論・創造への適応力	10	10	0	0	0	0	20
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	10	10
総合的な学習経験と創造的思考力	0	10	0	0	0	0	10
主体的・継続的な学習意欲	0	0	0	0	0	10	10